



お酒は 20歳 になってから



アルコールは、20歳未満の人のこころやからだの発達、健康に大きな影響をおよぼします。

01

脳への影響

アルコールは、発育途上の脳細胞に大きなダメージを与え、学習能力や集中力、記憶力、判断力、意欲などの低下につながります。

02

からだへの影響

アルコールを分解する働きも未完成なため、短期間で肝臓をはじめ、さまざまな臓器に障がいを起こす危険性が高まります。

03

性機能への影響

アルコールは、性ホルモンのバランスを崩します。男性は、生殖器の発達を妨げられ、女性の場合は、生理不順や無月経になることがあります。

04

依存症になりやすい

大人よりも短期間でアルコール依存症を発症する可能性が高まります。また、飲み始めが早ければ早いほど、将来アルコール依存症になる確率が高くなると言われています。

05

20歳未満の人の飲酒は、法律で禁止されています

民法改正により、成年年齢が18歳に引き下げられましたが、お酒を飲んでもいいのは、20歳以上です。また、20歳未満の人にお酒を勧めることも違法です。

